



発行・カトリック水巻教会

編集・広報委員会

遠賀郡水巻町頃末南1丁目35-3

〒807-0021

TEL 093(201)0680 FAX(201)7354

第290号

多文化共生 広報・岩本

私たち日本人にはあまり関係ないことですが、昨年7月から入国管理法が改定されました。今回の改訂は一度に実施されるものではなく、交付から順次3年かけて実施されています。最初に昨年7月から実施されたのは研修生・技能実習生制度でした。

今まで一年間の研修生期間を経て2年目から技能実習生(労働者)として雇用されていたのが、3ヵ月以内の研修期間が済んだら実習生として雇用されることになりました。一年間の研修生としての期間は最低賃金すらも保証されない低賃金で働かされるひどいものでした。労災事故が起こるのもこの期間でした。研修期間は勉強中ということになっているのに毎日夜中まで300円の低賃金で残業させている会社もたくさんありました。この制度が良い方に改定されたことで、労働条件が改善されたことは良かったと思います。

今回の改訂入管法は、来年7月から最後の部分が実施されます。今回の内容は外国人を完全に管理することが目的です。法務省のホームページにも「外国人の動向を完全に把握すること」と書いてあります。

今回実施されるのは、外国人登録法の廃止と外国人住民票の創設、在留カードの発行です。今回の改訂で対象となるのは全ての外国人で、在日外国人、永住許可者も含まれます。

今回の改訂では、転居する度に転出、転入届けを14日以内に届けることを求めています。完全に定住が出来ていて、安定した生活が確保できている人たちには負担に

はならないと思われますが、パートタイムや契約で働いている人たちは生活が不安定ですから、仕事のために転居することも多いのです。届出をしない時は20万円以下の罰金とか、届けの遅れが長期になると国外退去という罰則が付いています。

現代は、多国間の移動が簡単になり、富める国に職を求めて移動することが世界的に常識になっています。外国籍住民がどの町にもいることも常識になりました。

神は、寄留者もそこに住んでいる人たちと同じように扱われました。(出エジプト20章10節) また、イエス様の一家もエジプトに逃れました。(マタイ2章13節～)

昔から人は移動し、移動したところに新しい文化を伝えました。多文化共生がその国の文化をさらに発展させたのです。日本のカトリック教会にはたくさんの外国人の信徒がいます。私たちの共同体にもいます。

人が人らしく生活するのに国籍や人種は関係ありません。私たちの友人である人たちに問題がおきないように助けるよう、アドバイスができればと思うのです。

今、モーセの十戒を読み直す・・・	2面
子ども達のページ・・・	3面
委員会等報告・・・	4面
典礼委員会議事録・本の紹介・・・	5面
福音を運ぶ人を目指して・・・	6・7面
教会学校のページ・・・	7面
おしらせ・聖書への案内・・・	8面

「今、モーセの十戒を読み直す」No.14

さいたま教区長 谷 大二司教

まとめ①

この十戒の話を最近あちこちでしているのですが、この間、(栃木県)那須のトラピスト(＝厳律シトー会)の修道院でこの話をしたのですが、話し終わって考えていたら、トラピストの修道院の共同体は、まさにモーセの十戒をそのまま生きているという感じの共同体だということに、ふと気がつきました。私たちの教会共同体も、男と女がいますからトラピストのように行きませんが、共同体づくりの基本というものが、しっかりと一人ひとりにも理解されて、作っていく必要があるという風に思いました。

少しまとめますと、出エジプトの旅というのは、奴隷から解放されるための一つの条件でもあったのです。しかし、具体的には食物と水と寝る場所、それを確保して歩いていくという大変な旅だったと思います。移住者が難民として約束の地に向かう旅でもあり、奴隷根性からの解放がその40年だったと思います。何度も何度も神々を仰ごうとしたり、元のエジプトにいた方がよかったと途中で文句を言う人たちがいたり、それを度々乗り越えていく。それは言わば奴隷根性からの解放ということに大きな意味があったのではないかと思います。

現代のことも考えると、去年からの派遣切りと不況は別のものですけれども、ある意味では出稼ぎ労働者たちがフルイにかけられたような形になって、そして残った人の多くは定住に向かって行きます。定住に向かうからには、生き方というものをもう一度見直す必要があります。そして派遣会社に頼りきるのではなく、自分たちの足で立っていく歩み方をしていく必要があります。

これまで言わば奴隷根性で働いてきたのじゃないか、でもこれからは日本に住む一人の人間として自分たちの権利を主張し歩いていく必要があるのではないかと思います。日本語の問題も苦しいですけど、習得の努力をしなくてはならなくなってくるだろうし、会社にしても契約にしても仕事を探すことにしても、自立した形で派遣会社に頼らずに歩いていく、そういう努力が必要な気がします。そういう意味でいま、移住者たち自身も奴隷根性から解放されていく必要があると思います。その中で移住者自身の解放が実現するのじゃないかと思ひますし、移住者たちの中から神学生やシスターが誕生していくという希望を持っています。





イエス様が天に昇って行った後、弟子たちがどうやってイエス様の教えを伝えたことが、ルカによる福音書の続きとして書いてあります。

イエス様は「・・・あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。そして、エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、また、地の果てに至るまで、わたしの証人になる」(1章8節)と言われました。そのため弟子たちは、その頃の大きな町にイエス様の教えを伝えるために旅に出ることになりました。この本の最初はペテロのことが中心に書いてありますが、13章からパウロの旅の話になります。

エルサレムではキリストを信じる人たちが増えたので、弟子たちの仕事を助ける人を七人選びました。その中の一人でも優秀だったのがステファノでした。

ステファノはユダヤ教の長老や律法学者と議論しました。そのため人々

にステファノを捕まえさせ殺してしまいました。(7章)これがキリスト教の最初の殉教でした。

このとき、ステファノを殺すことに賛成していたのがサウロでした。この後、サウロはイエスの弟子たちを捕まえるために旅に出ました。ところが途中で突然天からの光が彼の周りを照らしました。サウロは地に倒れました。そのときイエス様が現れたのです。サウロは3日間目が見えず食べも飲みもしませんでした。近くの町に住んでいるアナニアという人が呼びかけ「ユダの家にいるサウロというタルソス出身の者を訪ねよ」と言われました。アナニアは出かけて行ってサウロの手に手を置きました。すると、たちまち目から鱗のようなものが落ちて目が見えるようになりました。これが有名な「サウロの回心」です。(9章) この後からサウロは、パウロという名前になりイエス様の教えを伝える旅を続けます。

委員会等報告

2011年7月分

7月度小教区委員会

7月3日

1、議題

(1) 8月7日(日) 平和の集い(バスで乗り合い; 26人乗り)

7月17日~31日まで掲示し、バス利用による参加者を確認します。

(2) 8月28日(日) 聖堂と信徒会館のワックス掛けをします。

仕事は限定して、草取り等はしません。全般の作業はクリスマス前に行います。

(3) 9月11日(日) 敬老のお祝い会

8月7日に招待状を出します。

(75歳以上)

今回は病者の秘跡はありません。小教区委員は全員出席をします。

(4) ザビエル合唱団からチャリティー・ミニ・コンサートの申し込みがありました。

期日 10月16日

申し出を認めることにしました。

2、各委員会から

・平和の集いについて・・・典礼委員会
千羽鶴か霊的花束をささげることにし、霊的花束は10日のミサ以降、募ることにします。

3、その他

- ・司祭館事務の代行(3ヶ月間)を依頼。
- ・幼稚園との電気代を分けるため、電気メーター等改良工事をします。
水道の区分けも将来考えることにします。
- ・日曜ミサの着席状況改善のため、お知らせ、ロープ掛け、貼り紙などをします。

・信徒協 レクリエーション大会

8月28日~9月12日までバスによる参加者を確認するため、参加者の受付をします。

・ミサ(土曜夜)参加者が少なく、これまでも中止の場合もありましたので、7月23日~9月24日の間中止とします。

・裏門のポストは現在利用していないので穴を塞ぐことになった。

・乗合のバス利用時、葬儀社のバス提供の話もあるが、利用しないことに。

4、これからの予定

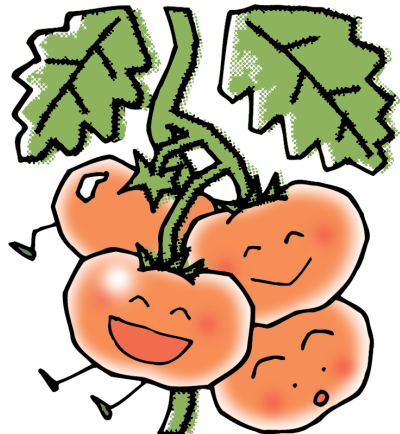
○7月23日(日) 小学生練成会(古賀教会)
以後、海の中道

○7月23日(日) 幼稚園夏祭り

○8月7日(日) 信徒協主催
平和の集い

○8月15日(月) 聖母被昇天ミサ
9時半から

○8月28日(日) 聖堂ワックス掛け



2011年度 第3回 典礼委員会議事録

開催日時：2011年7月6日(水)19:30 場所：信徒会館

出席者：竹森神父、柴田、俵、三谷、松尾定五、安永、山本、矢田

《報告事項》

1 平和の集い(8月7日) 関連して

- ・7月から8月7日までミサ後に「平和の祈り」を皆で唱える。・霊的花束を奉納する。
- ・平和献金(東日本大震災被災者と東チモール支援)は8月7日小倉に持参。

2 8月15日(月) 聖母被昇天の祝日 ミサの時間 9:30 朗読者依頼

3 「十字架の道行きの祈り」150部を増刷予定、原案を回覧済み。

4 教区の聖体奉仕者養成講座に松尾隆氏。安永仙之助氏更新。

《審議事項》

1 北九州信徒協典礼部会からの宿題(8月28日までに)

司祭・信徒の協力による「よりよい、生きた典礼」のための話し合いに向けたテーマを考える。水巻の場合：

- ・ミサの時、聖堂後ろでの立ち参加対策。
司会が前から詰める、後ろ2列を明ける、ベンチ中程に座るなど連絡する。
- ・信徒ができる教会の仕事・活動を列記して参加者を募るため、たたき台を作って9月の小教区委員会に提案する。
- ・地区朗読当番への協力(事前に申し出を受け、神学生あるいは典礼委員で担当する)

2 第6回 黙想の家で祈り語り合う集い(10月2日)のテーマ案。

「東日本大震災と九州のわたしたちの関わり」

「生きた典礼にするためには」(信徒自身の積極的ミサ参加をめざす)

3 典礼聖歌研修会の日程交渉 24年1月

4 8月の典礼委員会は休会

*次回予定 2011年 9月14日(第2水曜日) 信徒会館



本の紹介 「これからの教会のありようを考える」

教会の歴史を振り返りながら、現代カトリック教会が、人々にまずきになるものを真摯に見つめて、前教皇ヨハネ・パウロ二世が指摘したように、自らを改め、より多くの人々の人生を支える真実の希望になってほしい、という願いを込めて、教会のありように迫る本です。

森一弘 著 B6判 並製 175ページ 女子パウロ会発行



福音を運ぶ人を目指して

神学科 1 年 北村 雅彦

何だか上手く行かないかと、少々落ち込みながら市役所に書類を取りに行った時、たまたま教会を発見し、入ってみたのがカトリック金沢教会でした。金沢教会が市役所の隣にあるのは知りませんでした。その時は平日だったせいか無人で、とても静かで落ち着く空間だなと思い、何回か通っていました。しかし、いつ行っても無人なので、不思議に思い調べてみると、日曜日にミサがあるのでその日に行けばよいと知りました。そして早速次の日曜日に行ってみると多くの人々が居て、初めてのミサには緊張しながら参加しました。司式はカルメル会でイタリア人のアルマンド神父様でした。神父様は歌がとても上手く、説教も分かりやすく徐々に清々しい気分になり、それをきっかけに主日ミサに通う様になりました。さらに、しばらくしてからホームヘルパー2級の資格を取得するために講座にも通い始めました。

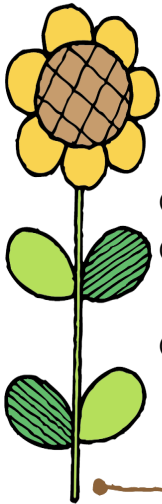
半年くらい経って、アルマンド神父様に洗礼を受けないかと勧められました。少々早い気がしましたが、神父様に「君なら問題ない」と言ってもらえたので、クリスマスに洗礼を授けてもらう事になりました。ホームヘルパー2級の方も無事に資格が取れ、再就職先も決まり、だんだん物事が良い方向に向かって行く様な感じがしました。今思えば、神様が導いてくれたのかも知れません。

再就職先は身体障害者施設の職員で、その施設に入所して生活している利用者の方々のサポートでした。はじめの頃は不定休で時間も不規則でしたし、入所者は105人と大きな施設だったので、顔と名前を一致させる事が苦手な私には大変でした。さらに私は冗談を多く言って利用者の方々を和ませるスタイルで仕事をしていたので、ある上司には「ふざけているのか」とか、「仕事を大事にしていないのか」とか言われ、あらぬ誤解を受けて困った事もありましたが、結果的には上司も理解してくれ、良い環境で仕事が出来ました。

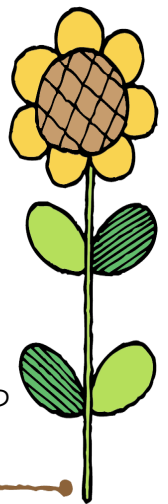
しばらくして仕事にも慣れ、利用者の方々との間にもある程度の信頼関係が築けてきた頃のことですが、私がカトリック信者で、毎週できるだけミサに行っているということが話題になりました。その時にある利用者の方が「自分も教会に行って神父さんに会ってみたいな」おっしゃったのです。その時は簡単に、「じゃ、私と一緒にミサに行きましょうか」と言ったのですが、時間の制約や車椅子用のタクシーの手配、さらには保護者の許可、看護科の許可、等々・・・が解決できませんでした。さらには、職員がある利用者だけに特別にそうするのはおかしいと言われてしまいました。健常者には一緒に教会に行きミサに参加すると言った簡単な事なのに、施設に入っているばかりに参加できないという状況は、とても残念に感じました。だったら神父様に来てもらおうかとも思ったのですが、皆さん忙しくてスケジュールが合わず、それも無理でした。(7面下へ続く)



教会学校のページ



初聖体クラス



7月10日

- 5つの祈りをしました。
- テキスト「つみ」(16, 17, 18)を読み、わからない言葉を一つ一つ話し合いました。
- 聖母の騎士より
こども聖人「聖アグネス」の日々の生活と殉教に至ったお話を読みました。

3～6年

7月10日

北村神学生からミサについてやさしく説明してもらいました。
(何から始まり、どんな構成になっているか等)

(6面より続き)

そこで思った事が、もし、私が司祭になればミサに参加したくても参加できない境遇の人達に福音を運んで、のべ伝える事が出来るのではないかなと言う事です。それが、司祭職について勉強をしようと、この神学院に入った主なきっかけです。ところで、その施設を退職する時、「1回でも良いから教会に行ってみたい」と言っていたその利用者の方は「さみしくなるが、神父さんになったら必ず会いにきてくれ」と言って笑顔で送り出してくれました。今でもその笑顔は心に残っています。

現代社会には色々な事情で教会に来たくても来れない人、未だにキリストの事を良く知らない人がたくさんいると思います。そんな人々のところに福音を運び、伝えていける司祭になれば良いなと思っています。ただ、すべては神様のご計画の中にありますから、そうなれる様にこれからも日々祈って、勉強していきたいと思っています。そして、私はまだまだ未熟で弱い人間ですので、皆様から色々教えて頂くと共に、是非とも、お祈りもお願いしたいと思います。今後とも、どうぞよろしくお願い致します。

★平和の集い★

日時：8月7日(日)

場 所：第1部 各小教区にて

第2部 小倉カトリック教会
(13:00～16:00)

テーマ：希望に向かって

講師：林 尚志神父（イエズス会司祭）
バスで乗り合わせて行く予定です。参加希望者は掲示板の用紙にご記入ください。（7月31日まで）

詳しい内容は、先月号をご覧ください。

★土曜日のミサ★

7月23日から9月24日まで、土曜日のミサを中止します。お間違えのないよう気をつけてください。

★聖母被昇天のミサ★

日時：8月15日(月)

午前9時30分より



聖書への案内 No.20 エレミヤ書

ユダヤ王国滅亡期に活動したユダの預言者。彼は預言者の中でも最も近代的な感覚を持っていました。エルサレムの北5 kmのアナトトの出身で祭司の家系に生まれました。

エレミヤ書は「大預言書」に属し、新しい契約の思想が入っていて新約時代への方向付けをしたといわれています。

この書は一人の人が書いたものではなく、次第に編集や追加がされたものといわれ、最後の編集は紀元前 2 世紀といわれています。全体は四つに分かれています。

1、エレミヤの言葉 1 章～25 章・・・エレミヤが書記のバルクに口述したものとされています。ユダとエルサレムについての預言が書かれています。

2、エレミヤの伝記 26 章～45 章・・・書記バルクが書いたエレミヤの伝記

3、諸外国に対する預言 46章～51章

4、歴史的補遺 52 章・・・列王記下 24 章 18 節～25 章 30 節から転載したもの

★納骨堂委員会からのお願い★

お盆に納骨堂を開けておく時間です。

8月13日(土)…10時～17時まで

8月14日(日)・15日(月)

ミサ後から17時まで

お盆の間、納骨堂管理(お参りに来られた方を案内する)にご協力いただける方は、久保園さんまでお知らせください。時間の調整をします。

★ワックス掛け★

聖堂と信徒会館のワックス掛けを8月28日に行います。当日は、作業しやすい服装でお越しください。



【結婚】末永く、お幸せに！

◇脇田 徹さん

小川 智美さん

彼らのためにお祈りしましょう。